

第28回 山梨県南都留地域教育フォーラム

「子どもたちの教育は地域全体で担う」

○日 時 11月7日(金) 13:30 ~ 16:30

○場 所 富士吉田市民会館(ふじさんホールおよび小ホール)

○主催者 南都留地域教育推進連絡協議会(南都留地推協)

○参加者 南都留地域の学校や各団体の関係者など 326 名

○概 要

1. 全体会 13:30~14:00

式典(原田孝雄南都留地推協会会長挨拶、堀内茂富士吉田市長および都留文科大学加藤敦子学長祝辞)および基調提案(杉本賢二 南都留市町村教委連合会会長)



杉本道志村教育長による基調提案

2. 第一大分科会 14:10~16:30 @小ホール

(1) テーマ

『誰一人取り残されない教育』～帰国・外国人児童生徒とこれからの地域・学校～

(2) コーディネーター 都留第一中学校 校長 岩澤宏行 氏

(3) 実践提案

① 「小中学校での日本語指導からよりよい未来を考える」

南都留地区日本語指導担当 忍野小学校 教諭 小幡俊輔 氏

② 「外国にルーツを持つ児童への日本の学校生活に適應するための支援について」

外国籍児童担任経験教諭 船津小学校 教諭 渡邊大智 氏

(4) パネルディスカッション

上記提案者の他、富士河口湖町政策企画課 男女共同参画・国際係の萱沼春佳氏、指導助言者として都留文科大学講師 上野貴彦 氏をお迎えして、南都留地区でのよりよい共生社会の実現に向けてのディスカッションを行いました。



小幡氏(左)、渡邊氏(中)、萱沼氏

3. 第二大分科会 14:10~16:30 @ふじさんホール

(1) テーマ 『地域連携のこれからを考える』～地域の各団体との豊かなつながり～

(2) コーディネーター 吉田高等学校 校長 権太正弘 氏

(3) 実践提案

① 「園が大切にしている地域の“えん”」

都留市保育所連合会代表 開地保育園 園長 亀澤正隆 氏

② 「自分をかえる、地域をかえる～みんなで育む地域教育～」

NPO 法人 かえる舎 代表理事 斎藤和真 氏

かえる組 富士北稜高校:小野田ゆずさん 富士学苑高校:佐々木希愛さん、加藤三佳さん、小佐野美羽さん

(4) パネルディスカッション

上記提案者の他、指導助言者として都留文科大学准教授 田開(たびらき)寛太郎 氏をお迎えして、子供たちを中心とした地域の連携活動からどのように地域を活性化していけるのかについて討論を行いました。



第一大分科会:アドバイザーの上野氏(左)
コーディネーターの岩澤氏



フロアからも発言があり活発な議論に!

○参加者の感想

「地域との連携や密着した活動がとても印象に残りました。高校生が楽しそうに活動し、その地域を好きになっている様子を聞いて、地元を生かした学習の大切さを改めて認識しました。」(第二大分科会参加者)

「素晴らしい事例であり、細かなところまで理解できて良かったです。こうした取り組みが地域でもっと広がれば、魅力ある地域になっていくと思います。」(高校関係者)

「本校にも今年度、まったく日本語がわからない児童が転入してきたため、手探りの状態で指導・支援にあたってきました。本日の会は非常に参考になりました。」(第一大分科会参加者)

「地域連携というテーマから様々な話につながり、自分の考えを見直す良い機会となり、とても面白かったです。」(保育園関係者)

「柱がしっかりしていて、進行もスムーズでした。考えさせられる内容で、教育全般に当てはまるものでした。」(中学校関係者)

「民間の資源がどのように地域貢献に役立つのか、よく理解できました。」(PTA関係者)

「子供たちを地域で担うことの必要性・重要性を、この会に参加し、皆さんの言葉を通して改めて感じることができました。保育園や小学生の頃は地域との関わりが多かったように思いますが、中学・高校生になると次第に離れていってしまう現実があります。そんな時に“かえる組”のような存在があると安心できると思います。他にも同様の取り組みをしている団体が増えるといいなと思いました。私自身も地域の一員として、他人事ではなく取り組んでいけるようにしたいと思います。かえる組さん、頑張ってください。」(PTA関係者)

外国にルーツを持つ人々を含む地域住民が、誰もが住みよいまちをつくること。そして、学校だけでなく地域全体の教育力をいかに活用するか。成功の鍵は、学校・行政・地域の連携にあります。地域に根ざして暮らす人々が「南都留で良かった!」と思えるようにするために、私たちに何ができるのかを考える、非常に良い機会となりました。



発表を行う開地保育園の亀澤氏



実践提案を行った、かえる舎の斎藤氏(左)とかえる組の小野田さん、佐々木さん、加藤さん、小佐野さん(左より)



第二大分科会アドバイザーの田開氏(左)
コーディネーターの権太氏

山梨ことぶき勸学院 第39回 勸学院祭

○日時 10月17日(金) 12:30 ~ 16:25

○場所 YCC 県民文化ホール 小ホール

- ・ことぶき勸学院の皆さんが、『勸学院祭 笑顔で作る一つの輪』をテーマに、日頃の学習の成果を存分に発揮し、合唱、踊り、朗読劇、和太鼓など、心のこもったパフォーマンスを披露しました。
- ・開会行事の後、異世代交流の一環として甲府工業高校応援団が勇ましい応援演舞を披露しました。続いて各教室による舞台発表が行われました。
- ・南都留教室からは、1・2年生22名が出演。踊り『花笠音頭』に加え、都留市民愛唱歌『今 生きてます』『吉田小唄』『青い山脈』を、力強く、そして会場と一体となって楽しそうに披露していました。
- ・北都留教室からは、1・2年生18名が出演。朗読『せいだいモのはなし』では、上野原の伝統料理「せいだのたまじ」の言い伝えを大型紙芝居で紹介。『清太夫音頭』では、息の合った踊りで会場に温かな感動を届けてくれました。



開会行事での勸学院歌斉唱の様子



甲府工業高校応援団の応援演舞



南都留教室の踊り「花笠音頭」



心を一つにして歌いました!



北都留教室の大型紙芝居の発表



「♪せいだゆう〜、せいだいも〜」

・両教室の皆さんは、自主的に練習を重ね、当日は堂々と舞台上に立ちました。その姿からは、学びへの真摯な姿勢と、仲間とともに創り上げる喜びが伝わってきました。

ことぶき勸学院祭は、学びの成果を発表する場であると同時に、仲間と協力し合う喜びや地域とのつながりを実感できる、心温まるひとときとなりました。



北都留教室のみなさん



南都留教室のみなさん

河口湖北中学校 よのなか科

○日 時 10月9日(木) 14:20 ~ 16:00

○場 所 河口湖北中学校

○参加者 中学1年生25名、大人20名

○講 師 松田和真 先生(都留高校教諭)

○内 容

・教育改革実践家の藤原和博先生が提唱する「よのなか科」は、学校で教えられる知識と実社会との架け橋となることを目的とした、アクティブラーニング型の授業です。今回は今年度5回目の授業でした。

・今回は、特に人気の高いプログラム『ハンバーガー店の店長になってみよう!』を実施しました。

・実際の地図を使い、道路、鉄道、学校、商業施設、ライバル飲食店などの様々な条件を考慮しながら、「自分がエリアマネージャーだったら、どこに新規出店するか」を考える授業でした。

・中学生2~3人と大人(教員や地域住民など)2~3人でグループを組み、出店場所を一つに決めるために、熱い意見交換が行われました。

・最後には、各グループの代表者が出店場所とその決め手となった理由を発表し、多様な視点での考え方を共有しました。

○感 想

「今日の授業を通じて、物事の捉え方にはいろいろな視点があることを学びました。今後は、自分の住んでいる町の見方も変わってくると思います。友人や大人の方と議論できて、とても楽しかったです。」(中学生)

「子供たちが実社会の課題について、これまでに身につけた知識や経験を活かして考える授業がとても良かったです。また、松田先生がYouTubeの映像を活用するなど、授業内容を深める工夫もされていて、生徒にとって学びの多い素晴らしい授業でした。」(大人)

「よのなか科」の授業は、楽しい中にも深い学びがあり、子供たちの普段の授業への意欲を引き出す力を秘めています。松田先生が藤原先生のモデルを発展させ、生徒の心を大いに揺さぶる内容に仕上げてくださいました。子供たちも、大人との議論に積極的に参加し、日頃の学びの成果をしっかりと発揮していました。まさに、これからの教育のあり方に新しい風を吹き込む、とても印象的な授業でした。



他県からの講演依頼もある松田先生



地図を見て熱い議論が交わされました



子供の意外な視点での提案に感心



堂々としたプレゼン!



語りかけるようにプレゼンする生徒



多様な考えに聴き入る参加者たち



本田圭佑氏の感動的な演説も活用!



授業後のリフレクションの様子

大月キリストの教会幼稚園～子供主体の社会貢献～

フードサポートへの玉ねぎと募金の寄付で社会貢献！

○日 時 7月15日(火) 12:30 ～ 13:30

○場 所 認定NPO法人 富士の緑とフードサポート

○ねらい 様々な人の温かさに触れ、人と関わる喜びや
人の役に立つ喜びを味わう

○内 容

- ・この活動は、一昨年の年長児さんの提案から始まりました。園児たちは「子供の貧困問題」について学ぶ中で、自分たちにできることを考え、毎年育てている玉ねぎをフードバンクに寄付する取組がスタートしました。
- ・今年度は園児たちの提案により、玉ねぎの一部を保護者に販売し、その売上を寄付することにも挑戦しました。
- ・昨年9月の種まきから、苗の育成、畑づくり、苗の移植、冬の間の世話、そして今年6月の収穫まで、すべて園児たちの手で行われました。さらに、より多くの保護者に玉ねぎを買ってもらうにはどうすればよいか、募金に協力してもらうにはどうすればよいかを話し合い、計画を立てて実行しました。
- ・収穫した玉ねぎは758個。そのうち約550個を販売やカレーパーティーに使用しました。
- ・フードサポートへの寄付は、残りの約200個の玉ねぎ、売上金8,000円、募金14,000円、そして各家庭のご厚意によってお寄せいただいた食品6箱分となりました！

○子供たちの感想と思い

「みんなでそだてたまねぎをわたすことができてうれしかった」「たまねぎのしゅうかくをがんばった」「こまっているひとをたすけたこと、そのためにおかねをあつめたことがうれしかった」「みんなでちからをあわせてあつめたぼきんです。よろしくおねがいします。」

この一大プロジェクトを通じて、社会問題や農業に関する知識、他人と協力して物事を進める力、そして自然や他者を思いやり尊重する心など、園児たちはとてもたくさんのことを学び、大きく成長を遂げました。大月キリストの教会幼稚園の先生方の教育理念が具現化された非常に素晴らしい取組でした！



雑草と格闘！「抜けな～い！」



玉ねぎの苗を移植「大きくな～れ」



玉ねぎいっぱいできました！



寄せられた食料品の箱詰め作業



1袋(600g) 100円で販売「おいしいよ！」



「募金おねがいします～す！」



フードサポートに無事届けました！「たくさんの笑顔が見られるといいな！」

明治安田上野原営業所 上野原MY (エムワイ) マルシェ ～企業の地域貢献～

※MY は Meiji Yasuda の略字です。

○日 時 9月27日(土) 10:30 ～ 15:00

○場 所 上野原市総合福祉センターふじみ

○主 催 明治安田上野原営業所

○後 援 上野原市 上野原市教育委員会



近隣中学高校の制服がたくさん！



体育着や私服もたくさんありました！

○内 容

・生命保険会社である明治安田が、今年度初めて実施した地域活性化イベントです。

・このイベントは、地域住民の健康増進、子育て支援、そしてSDGsの普及を目的として開催されました。

・制服や体育着のおゆずり会は、上野原市社会福祉協議会が運営しました。明治安田は、教育委員会を通じて各校に制服回収を呼びかけ、顧客の皆様にも不要になった制服などの提供をお願いして集めました。

・その他にも、食育教室、ボードゲームで学ぶまちづくり、eスポーツの体験ブース設置など、子供たちやご家族の支援を目的とした多彩な取組が展開されました。

・また、福祉作業所の出店、上野原のプロバスケットボールチーム「サンライズ」のパブリックビューイング、耳つぼ・ハンドマッサージブース、健活ブースなど、バラエティに富んだ出展が来場者を大いに楽しませてくれました。

上野原市を盛り上げようと、民間企業が主導し、行政や地域住民が協力して初めて実施された「MY マルシェ」。“協力は強力なり”を実感できる、心温まるとても素晴らしいイベントでした！



福祉作業所の出店もありました！



食育教室の様子



地元密着の飲食店の出店も！



ボードゲームは自社の独自開発！

富士吉田市立教育研修所 ふるさと発見ワークショップ

○日 時 9月19日（金）8:40 ～ 10:25 ほか

○場 所 明見中学校体育館ほか

○主催者 富士吉田市立教育研修所

○参加者 中学3年生 合計68名 ＊明見中会場のみ

○講 師 〔 〕は勤務先

望月 美奈魅 氏〔市立病院〕

山崎 愛莉 氏〔WRB Fuji〕

渡邊 恒介 氏〔LUCIDO STYLE Ricotto〕

渡邊 由佳 氏〔市立第6保育園〕

用元 歩夢 氏〔光織物〕

○内 容

・富士吉田の魅力を再発見し、郷土愛を育むこと、また将来の職業選択を中心とした人生について考えることを目的としたワークショップでした。

・富士吉田市にゆかりのある若者が講師を務め、それぞれの職業観や人生観について語っていました。中学生たちはその話を通じて、自身の進路や生き方について深く考える機会となったようです。

○生徒の感想

「いろいろな人の話を聞いて、仕事の大変さや楽しいところなどを聞いて、将来が不安だったけど安心できるようになりました。」「様々な分野の人の話を聞いて、多方面から富士吉田の良さや仕事の話について聞くことができました。富士吉田についてもっと知りたいと思いました。」

当初は、将来富士吉田市に生活の拠点を置きたいと希望する生徒は2～3名程度でしたが、終了時には半数以上の生徒が希望するようになりました。講師の皆さんの「富士吉田愛」が、生徒たちにしっかりと伝わったようです！



ワークショップの様子



美容師として活躍する渡邊さん



保育士として働く由佳さん



宿泊施設を営む山崎さん



看護師として働く望月さん



織物業に従事する用元さん

講師の皆さんから生徒さんへのメッセージ

望月さん「今しかできないこと、後悔のないよう全力で楽しんでください！」

山崎さん「やってみたいことはやってみよう！」

恒介さん「変わりたいなら今変わろう！未来は今の決断で動き出す」

由佳さん「“出会い” “楽しい” “好き” を大切に！」

用元さん「とりあえず“TRY”！」

明日の風 第21回 伊藤知治教士八段剣道教室

○日 時 9月28日(日) 9:30 ~ 12:00

○参加者 北都留地区の小中高生など30名、指導者14名

○講 師 警視庁名誉師範 剣道教士八段 居合道八段
伊藤知治(ともはる)氏

○目 的

郷土出身の伊藤先生と子供たちが稽古を通し触れ合う中で、子供たちが剣道の技術を高めることはもちろん、生き方について考える機会とするために開催されています。

○指導内容

- ・竹刀の持ち方、すり足、素振りなどの基本を徹底してご指導いただきました。
- ・かかり稽古では、個別に直接指導するなど、一人一人の特性を見極め、その子に合った声かけを行いました。

伊藤先生が子供たちに伝えた主な言葉

「剣道は、正しく、仲良く、楽しくするもの」

「剣道は心の勝負、正しいことを追い求めよ」

「剣道を通じて強い心を作る、勇気を育てる、弱い自分に打ち勝つ、そうすれば正しく生きられる」

○感 想

「高段者の先生方と稽古できる貴重な機会で、学びのヒントが随所にありました。稽古後は疲労感よりも感謝の気持ちの方が大きかったです。ご指導いただき、本当にありがとうございました。」(中学生)「基本から丁寧に教えていただき、少しずつ形になってきたと感じています。

また、先生のお話を聞いて、剣道は技術だけでなく心を鍛える武道であることを実感しました。」(中学生)

「『正しく』を身につけることが強さにつながるという話を聞き、子供を応援する際の大切な視点だと感じました。大変貴重な体験になったと思います。本日はありがとうございました。」(保護者)

伊藤先生は喜寿を迎えられた現在も、数日前までサンフランシスコ、夏にはブラジルでご指導にあたるなど、国内外を問わず精力的にご活躍されています。本日の教室で繰り返し使われていた言葉が「正しく」でした。正しい練習を重ねることが強くなるために不可欠であり、正しく生きることにもつながる — そのような思いを、先生は子供たちに力強く伝えてくださいました。先生の熱い想いは、確実に若い剣士たちの心に届いたことと思います。そこには、まさに地域教育の神髄がありました！



伊藤知治教士八段



一人一人に丁寧な指導



一つ一つ丁寧に解説



熱意あふれる指導



防具を着てかかり稽古



稽古後に講評する伊藤先生



伊藤先生を囲んでの記念撮影

明日の風 アスリート実技講習会&記録会

【実技講習会】

○日 時 9月20日(土) 9:00 ~ 12:00

○場 所 大月市営総合グラウンド

○参加者 北都留地区の小学生31名

○種 目 以下の6種目のうち2種目に参加
走り幅跳び 走り高跳び ジャベリックボール投げ
100m走 60mハードル 長距離走



一つ一つの動きを丁寧に指導



リード足と抜き足の使い方を解説

今後の予定 2月14日(土)
3月7日(土)

○参加者の感想

「途中で雨が降って中断したけど、2種目練習できて良かったです。次回は記録会なので、自分のベストを出せるように頑張ります！」（小学生）

「子供が外で体を動かす機会がなかなかないので、このような場を用意していただけるのは本当にありがたいです。走り高跳びやハードルなど普段できない専門的な競技ができるのもとても魅力的です。」（保護者）



しっかり説明してから実技に移ります



「指先で握るようにしよう！」

【記録会】

○日 時 11月1日（土）9:00 ～ 12:00

○場 所 大月市営総合グラウンド

○参加者 北都留地区の小学生23名

○協力者 大月市陸上競技協会4名 都留文科大学陸上部4名

○種 目 各自が時間内で希望する種目に参加しました。

走り幅跳び 走り高跳び ジャベリックボール投げ

100m走 60mハードル 800m走

○参加者の感想

「3種目にチャレンジしました。自己ベストを目指して全力を出せたので、とても楽しかったです！」「空いた時間に大学生のお兄さんとお姉さんに競技についてのアドバイスもしてもらい、とても充実した一日となりました！」

今回の記録会は、これまでの練習の成果を発揮する場となりました。大月陸協の皆様や都留文科大学の学生さんのサポートもあり、子供たちがそれぞれベストを尽くせた有意義な記録会でした。



記録係を務めた大月陸協の方々



大学生と談笑する子供たち



記録報告を待つ子供たち



800m 走のスタートの様子



大学生の模範演技を見つめる子供たち



最後は恒例の交流ルー!

第27回 富士ふれあいの村まつり

○日 時 9月11日（木）10:00 ～ 14:10

○場 所 富士北麓体育館

○主 催 山梨県 富士ふれあいの村運営委員会

○内 容

・開会式には国会議員や県議など多数の来賓が出席し、厳かな中にも温かみのある式となりました。

・ヨーヨーパフォーマー440（よよまる）さんによる圧巻のパフォーマンスで舞台発表が華々しくスタート。

・ふじざくら支援学校の児童・生徒や、地域の社会福祉施設の皆さんによるダンスパフォーマンスが祭りに彩りを添えました。

・昼休みには優雅なフルート演奏が行われ、最後は琉球國祭り太鼓長野支部による迫力満点の太鼓パフォーマンスで舞台発表が締めくくられました。

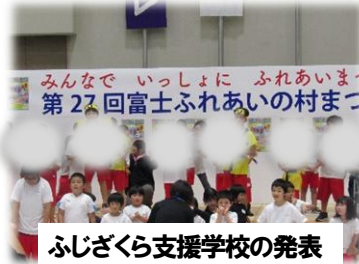
・模擬店では、福祉施設の方々が手作りしたスイーツや工芸品の販売のほか、お菓子の手づかみ取り、ヨーヨー釣り、手話教室など、来場者が楽しめる出店が多数並びました。



開会式での表彰の様子



富士吉田市出身の 440 さん



ふじざくら支援学校の発表



福祉施設の方の踊り



多くの観客を魅了しました！



会場は沖縄色に染まりました！

・閉会式では恒例のお楽しみ抽選会が行われ、豪華賞品を目指して、発表される当選番号に一喜一憂する姿が見られました。

○感想

「時間がかかったけど、みんなと協力して商品を作りました。たくさんの人が購入してくれてとても嬉しかったです」（模擬店担当者）

「踊りは難しく、みんなで踊るのはとても大変だったけど、舞台上で上手に発表できてすごく嬉しかったです」（発表者）

「初めて参加しましたが、障害のある方たちがとても生き生きとしている姿が心に残りました。もっと交流できる機会が増えれば良いと思いました」（来場者）

人と人とのつながりは、まず「お互いを知ること」から始まります。このイベントは、健常者も障害のある方も分け隔てなく交流できる、かけがえのない場です。地域に暮らすすべての人が、互いを尊重し合い、それぞれが自分らしく生きられる社会—その実現に向けて、このイベントが果たす役割はとても大きいと強く感じました！



模擬店も充実！おいしそう！

お楽しみ抽選会の様子

鳴沢小学校『ふじざくら支援学校との交流会』～共生社会への第一歩！～

○日 時 10月15日（水）10:00 ～ 11:10

○場 所 鳴沢小学校 体育館、音楽室、会議室

○参加者 鳴沢小学校 4～6年生 69名

ふじざくら支援学校 4～6年生 24名

○内 容

本交流会はコロナ禍以前から継続して実施されており、コロナ後のオンラインでの交流を経て、今年は昨年引き続き対面での開催となりました。

4年生 鳴沢小学校の児童は沖縄の踊り「エイサー」をふじざくら支援学校の児童は「エビカニクス」を披露。続いて、椅子取りゲームなどを通して、両校の児童が入り交じって楽しく交流しました。

5年生 鳴沢小学校の児童が「ソーラン節」を披露。ボウリングをみんなで楽しんだり、大縄跳びで手をつないで跳んだりする姿が見られ、互いに楽しみながら関わる様子がとても印象的でした。

6年生 鳴沢小学校の児童による「ソーラン節」や組立体操、ふじざくら支援学校の児童による手話ダンスで交流が始まり、風船ラリーや巨大オセロゲームを通して親睦を深めました。

○感想

「風船ラリーなど、鳴沢小学校のみんなとゲームをしたのが楽しかったです。」（ふじざくら支援学校6年）

「今日の交流会で一番心に残っているのは、ふじざくら支援学校の友達と一緒に大縄跳びをしたことです。一緒に頑張ったことで、お互いのきずながより深くなったと思います。また交流したいです！」（鳴沢小学校5年）

鳴沢小学校の児童がふじざくら支援学校の児童に優しくルールを伝えたり、困っているときに手を取り合ったり、また、ふじざくら支援学校の児童が場を盛り上げる姿など、参加した児童一人一人が自分の特長を発揮し、お互いに認め合いながら交流に取り組む様子が印象的でした。子供たちは大人の想像を超えて学び合い、確かな成長を遂げており、そうした場を提供することの重要性を改めて感じました。このような取組は、誰もが安心して暮らせる「共生社会」や、違いを尊重する「インクルーシブな学び」の実現に向けた大切な一歩だと実感しました。



4年生の交流の様子



椅子取りゲームを楽しみました！



5年生の交流の様子



「はい、どうぞ！」「ありがとう！」



ハイタッチで大盛り上がり！



鳴沢小6年生のソーラン節



迫力ある発表に大満足



巨大オセロゲームに熱中！

吉田小学校「山梨県立富士山世界遺産センターでの校外学習」

○日 時 9月5日（金）

○場 所 山梨県立富士山世界遺産センター

○参加者 吉田小学校 6年生 95名

○内 容

・当初は、山梨県と静岡県それぞれの富士山世界遺産センターを訪問し、両施設を比較しながら富士山に関する文化や自然について学習を深める予定でした。しかし、台風の接近により予定を変更せざるを得ず、今回は山梨県のセンターのみの訪問となりました。

・児童は12人程度のグループに分かれ、南館・北館それぞれで学習を行いました。

・南館では、ガイドの方の説明を熱心に聞き、学んだことを積極的にメモに取る姿が見られました。

・北館では、世界遺産センター作成のワークシートを活用し、展示物に隠された答えを探す18問のクイズに挑戦。さらに、全員で映像教材を鑑賞し、富士山の成り立ちや文化的背景について理解を深めました。

○児童の感想（一部抜粋）

「昔から富士山を大切にし、受け継ごうと多くの人が協力していると分かりました。」「富士山のおかげで

外国の人とも関われると思いました。」「ガイドさんから『富士吉田市は富士山登山者をお世話する大切な場所』と聞き、御師の家があることや、富士山の魅力を世界に広めていることに気づきました。」「

山梨県立富士山世界遺産センターでは、富士山が世界遺産に登録された背景を、子供たちが体験的に学べるよう、さまざまな工夫が凝らされています。教育スタッフによるガイド付き見学では、展示物の背景や意味を丁寧に解説してくださり、児童の理解を深める貴重な機会となりました。富士山を未来に引き継ぐ担い手を育てる、非常に意義深い施設であると感じました。皆様もぜひ一度足を運んでみてください！



ガイドさんが丁寧に説明してくれます



熱心に説明を聴く児童たち



ライトアップされた富士山、美しい！



展示物をくまなく見学する児童たち



映像教材で学習を深めます



難問？に挑みます！

禾生第一小学校「健康科学大学との交流事業」

○日 時 10月22日（水）10:00 ～ 11:30

○場 所 健康科学大学 桂川キャンパス（都留市）

○参加者 禾生第一小学校 6年生 41名

○目 的

大学での講義や施設見学を通して、児童が将来の職業選択や人生設計について考える機会とする。

○内 容

大学紹介 3名の大学生より、大学での学習や生活について、学生の視点からリアルなお話をいただきました。短時間でしたが、児童の皆さんも大学生生活を仮想体験できたようです。

講義 森川三郎先生による「ストレスとの向き合い方を知る」をテーマとした約30分の講義が行われました。内容にはやや難しい部分もありましたが、大学での学びの一端を体験でき、児童の皆さんにとって貴重な時間となりました



大学生による学校紹介の様子



ミニ講義を担当した森川三郎先生



学生ガイドによる学内ツアー



学生さんが丁寧に説明してくれました

施設見学&体験 児童は3グループに分かれ、①学内ツアー、②赤ちゃん抱っこ体験、③車いす体験に交代で参加しました。①では、築10年とは思えないほどきれいな校舎に驚きつつ、看護学部ならではの設備や図書館の書籍に興味津々の様子が見られました。②では、精巧に作られた赤ちゃんの人形を抱っこしたり、聴診器で心臓の音を聞いたりするなど、実際の授業と同様の体験をしました。③では、2人1組で車いすを体験し、看護する側とされる側の両方を体験しました。

○児童の感想

「車いすに乗ったり、赤ちゃん（の人形）を抱っこできたり、普段の授業ではできない体験ができてとても楽しかったです。」
 「大学生や先生方のお話を聞いて、医療に携わることは、人命に関わる大変だけど、とても大切なことだと思いました。今日学んだことを、将来の職業を考える時の参考にしたいと思います。」

将来の職業を選択する上で、“リアル”に触れることは何よりの刺激になります。就職することだけでなく、働くことの土台となる学びがいかに大切かを知る、とても良い機会となったようです。都留で学び、都留を支える人材が育っていくことを大いに期待したくなる大学見学でした！



「小っちゃ！首がグラグラで怖い💧」



「心拍聞こえる？」「よく聞こえます！」



車いす体験の様子



「医療関係の本がたくさんだね！」

都留第一中学校『都留樹富士を応援する会』～先輩の話～

○日 時 9月30日（火）13:50 ～ 14:35

○場 所 都留第一中学校体育館

○講 師 大相撲の力士 都留樹富士（つるぎふじ）さん
 （16歳）

○内 容

・都留樹富士さんは、都留一中を卒業後、郷土力士の先輩である竜電関の誘いもあり、高田川部屋に入門。現在は序二段の力士として、日々厳しい稽古に励みながら、本場所での取組に挑んでいます。

・今回は、母校からのオファーを快く受けてくださり、後輩たちに向けて、社会人としてそしてプロの力士として生きる道について熱い思いを語っていただきました。

・社会人として大切にしていることとして、「時間を守ること」「挨拶をしっかりとすること」の2点を挙げ、自身の経験を交えながら、生徒たちに真剣に語りかけてくださいました。

・生徒との質疑応答では、「一日に食べる食事の量は？」「立ち会いの時、相手と目が合ったときは何を考えますか？」といった相撲に関する質問から、「彼女はいますか？」「お姫様抱っこをしてくれますか？」といったユニークな質問や要望にも、笑顔で答えてくださり、会場は和やかな雰囲気になりました。

これから長い人生を歩んでいく後輩たちにとって、プロの世界で奮闘する先輩の言葉は、大きな励ましとなり、心に残る貴重な時間となりました。



後輩に熱く語る都留樹富士さん



真剣な眼差しで話を聴く生徒たち



生徒からの質問が相次ぎました



「僕と相撲で勝負してください！」



「お姫様だっこしてください！」



エールを送る生徒たち



生徒にエールを送る、元都留一中応援団長の都留樹富士さん



講演後も多くの生徒に囲まれ談笑する都留樹富士さん